

共同温泉の立地変遷と管理方式別に見る 施設特性と運営上の課題



1. 研究の背景

我が国には、数多くの温泉地が存在しており、そうした温泉地には、**共同温泉**が存在する

地域住民に加え**観光客の利用も受け入れている**場合も多く、
温泉観光の選択肢の一つとなっている

利用者数の低下によって、共同温泉は年々減少しており、
源泉数・湧出量日本一の**大分県別府市**においても、**共同温泉は減少傾向**にある

既往研究¹⁾では、現在運営されている9割以上の共同温泉で
資金・人材不足の課題を抱えることが明らかになっている

一方で、従来見られない運営形態をとる共同温泉も出現している

別府市は、2018年「住宅宿泊事業法」を契機として、**民泊施設が急増**している

既往研究¹⁾²⁾から民泊施設は、

2019年以降、住居系地域にも立地し始めている

民泊施設運営者による、共同温泉の回数券の購入や**清掃協力**など、
民泊施設と共同温泉での**機能補完が確認**できる

つまり、観光ニーズの多様化に伴い増加する民泊施設は、共同温泉にとって、
運営協力の可能性もあることが考えられる

1) 宮下達平「住宅宿泊事業法に基づく基礎自治体の取組み実態と温泉観光地における民泊施設立地規制のあり方」令和4年度修士論文

2) 姫野由香,指方綾乃,鄭載勲「温泉観光地における民泊施設の立地分析と住民評価の実態」

日本都市計画学会 都市計画論文集Vol.56, No.3, 2021年10月 pp.1085-1091

2. 研究の目的

別府市の共同温泉は、**転換期**を迎えており、住民生活・観光両面で存続が求められるなかその存続のための要件を明らかにする必要があると考えられる

目的

- ①建築的動向と、立地変遷を整理し、共同温泉盛衰の特徴を明らかにする
- ②現在の共同温泉の立地傾向を分析
- ③所有運営主体別の建築特徴と補助制度を整理
- ④近年継続のために運営形態を工夫している共同温泉の実態を把握

共同温泉の適正管理に向けた知見を得ることを目的とする

本研究での共同温泉の種別

別府市誌³⁾に記載されている

市有市営温泉(以下、市有市営)、**市有区営温泉**(以下、市有区営)、**区有区営温泉**(以下、区有区営)、3つの種別を用いる

3) 「別府市誌」別府市編集発行2003年

3. 近世から現代の共同温泉の動向と立地変遷の特徴

文献調査,現地調査,ヒアリング調査から

10年ごとの共同温泉の動向 (図1)

温泉に関する施策

別府市の開発の歴史の特徴

から**4期間**に分けた(表1)

【次スライドにて拡大】

各期間の共同温泉の立地を

図2～図5に示す

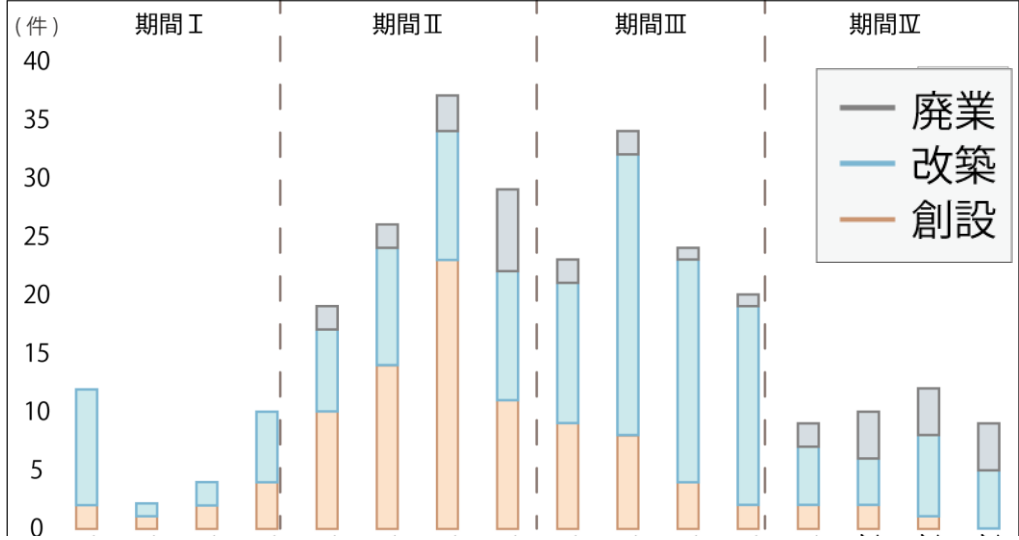


図2 【期間 I: 温泉行政の萌芽期】の共同温泉の立地

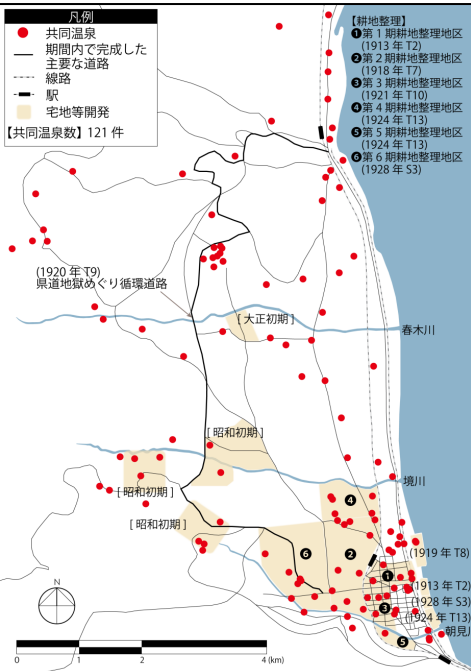


図3 【期間 II: 温泉観光発展期】の共同温泉の立地

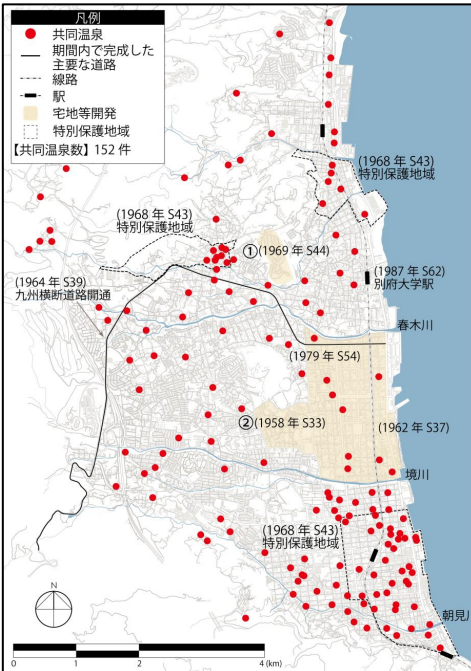


図4 【期間 III: 温泉保護・国際観光期】の共同温泉の立地

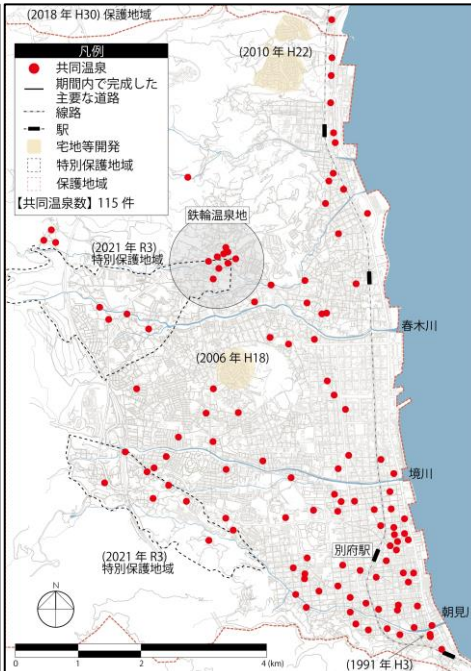


図5 【期間 IV: 温泉観光質向上期】の共同温泉の立地

3. 近世から現代の共同温泉の動向と立地変遷の特徴

期間Ⅰ (温泉行政の萌芽期)

47件と、他期間と比較して少ない
 鉄輪,別府・浜脇温泉地などに密集

期間Ⅱ (温泉観光発展期)

121件と飛躍的に増加
【期間Ⅰ】に完成した,別大国道や
 小倉街道に沿って増加

期間Ⅲ (温泉保護・国際観光期)

主要な道路や線路などから外れて立地
 共同温泉が市街化の拡大に伴い創設

期間Ⅳ (温泉観光質向上期)

115件と減少
 鉄輪温泉地,別府温泉地周辺での,減少が顕著

【期間Ⅰ】から共同温泉が密集していたエリア
 →共同温泉の利用者が減少している
 期間と考えられる

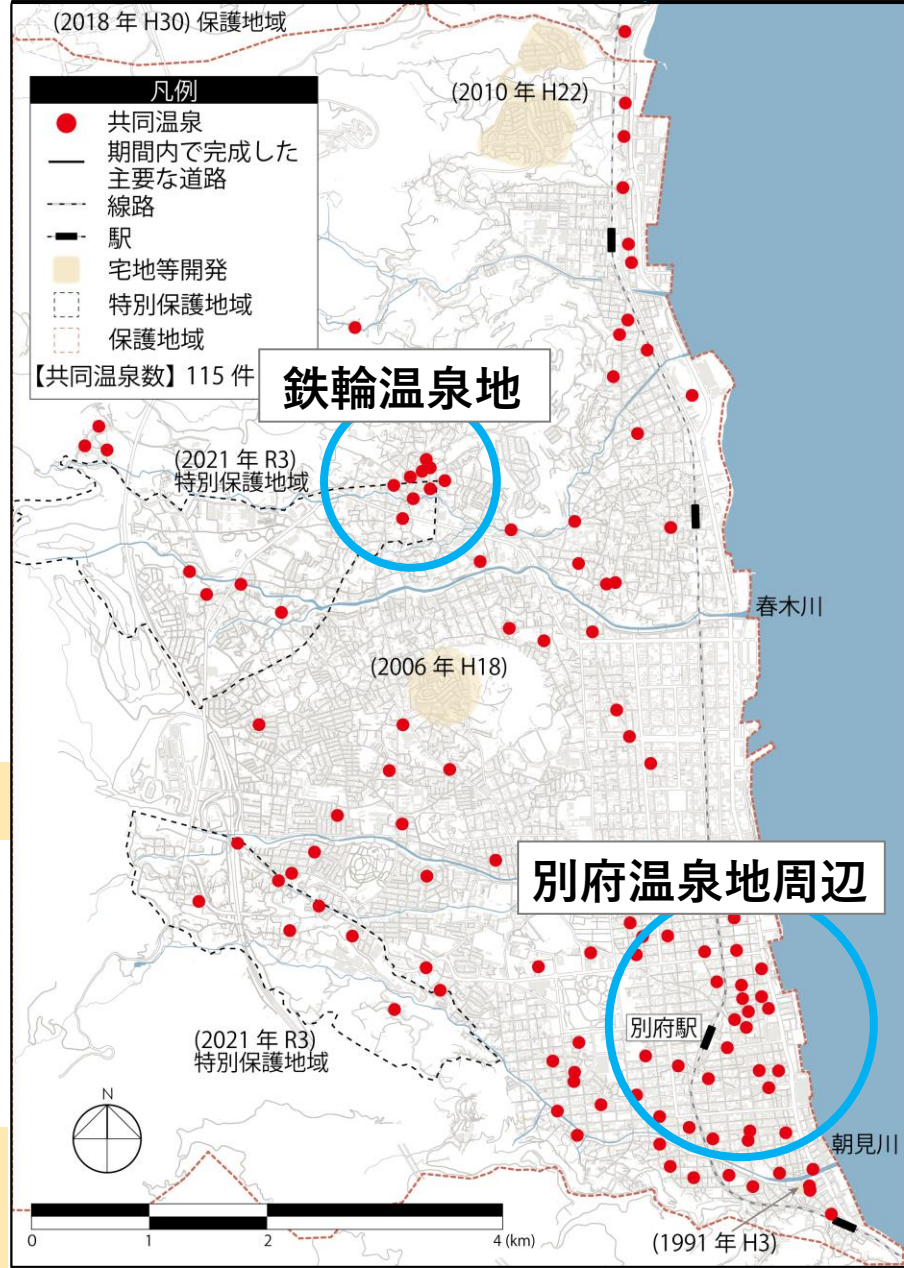


図3 (期間Ⅰ)温泉行政の萌芽期から(期間Ⅳ)温泉観光の質向上期までの別府温泉地の立地変遷

4. 用途地域と地区人口からみる共同温泉の特徴

期間Ⅳで確認された115件の共同温泉と、別府市の用途地域を図6に示す

市有市営の共同温泉は 19 件,
市有区営が 62 件,区有区営が 34 件確認

市有市営

商業地域に最も多く立地
7つの温泉地に合計16件立地している

つまり,市有市営の共同温泉は,
観光客も利用しやすい立地である

区有区営

第1種住居地域(12件,34.3%)に最多
住居系の用途地域に過半数
(34件のうち19件)

つまり,市有市営とは異なり
主に地区住民の日常的な利用を想定した
立地であることがわかる

凡例	●市有市営	▲市有区営	△区有区営	計
第1種低層住居専用地域				0
第2種低層住居専用地域		1 (1.6%)	1 (2.9%)	2
第1種中高層住居専用地域			1 (2.9%)	9
第2種中高層住居専用地域			1 (2.9%)	3
第1種住居地域	4 (21.1%)	11 (17.7%)	12 (34.3%)	27
第2種住居地域	2 (10.5%)	5 (8.1%)	2 (3.2%)	9
近隣商業地域		5 (8.1%)	5 (14.3%)	10
商業地域		12 (69.4%)	10 (28.6%)	55
準工業地域				0
工業地域				0
計	19	62	34	115

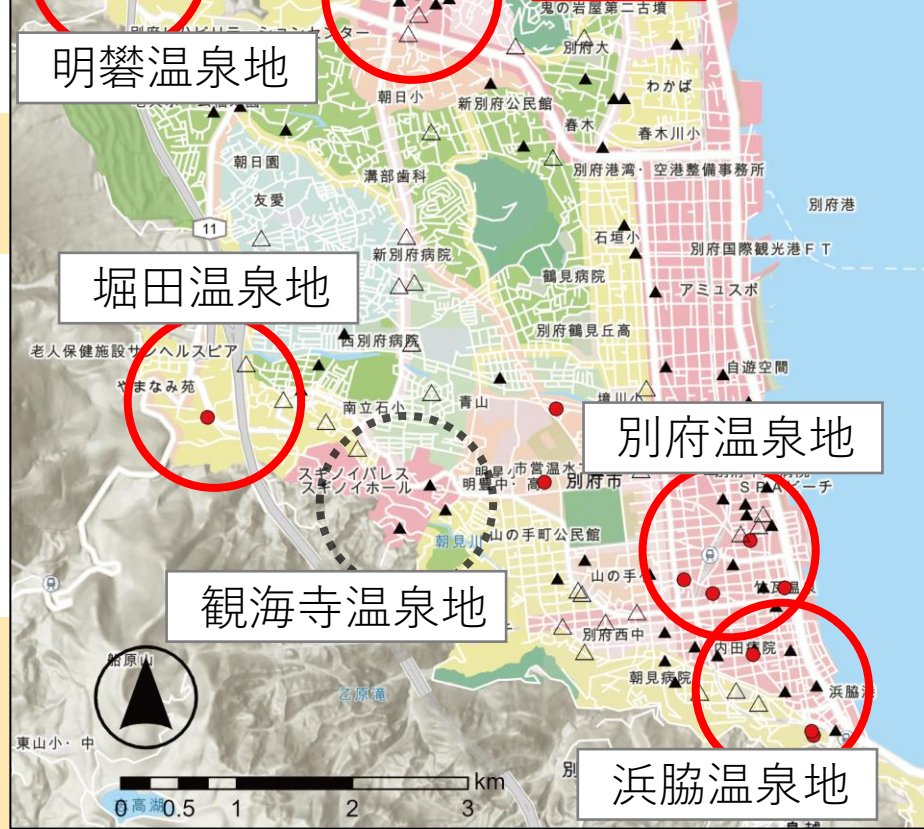


図6 所有運営主体別共同温泉の立地と用途地域

4. 用途地域と地区人口からみる共同温泉の特徴

地区ごとの人口を図7に示す

市有市営が立地する
 鉄輪別府浜脇温泉地付近
 →人口の少ないエリア(①②/16件)

今後の地区住民の利用は
 減少していくことが予想される

別府市中央(境川～春木川)
 →地区人口が多い
 さらに,高齢化率も低い(図8)
 少数の市有区営・区有区営のみ立地

したがって,比較的若い世代の共同温泉需要
 は低いことが立地から読み取れる

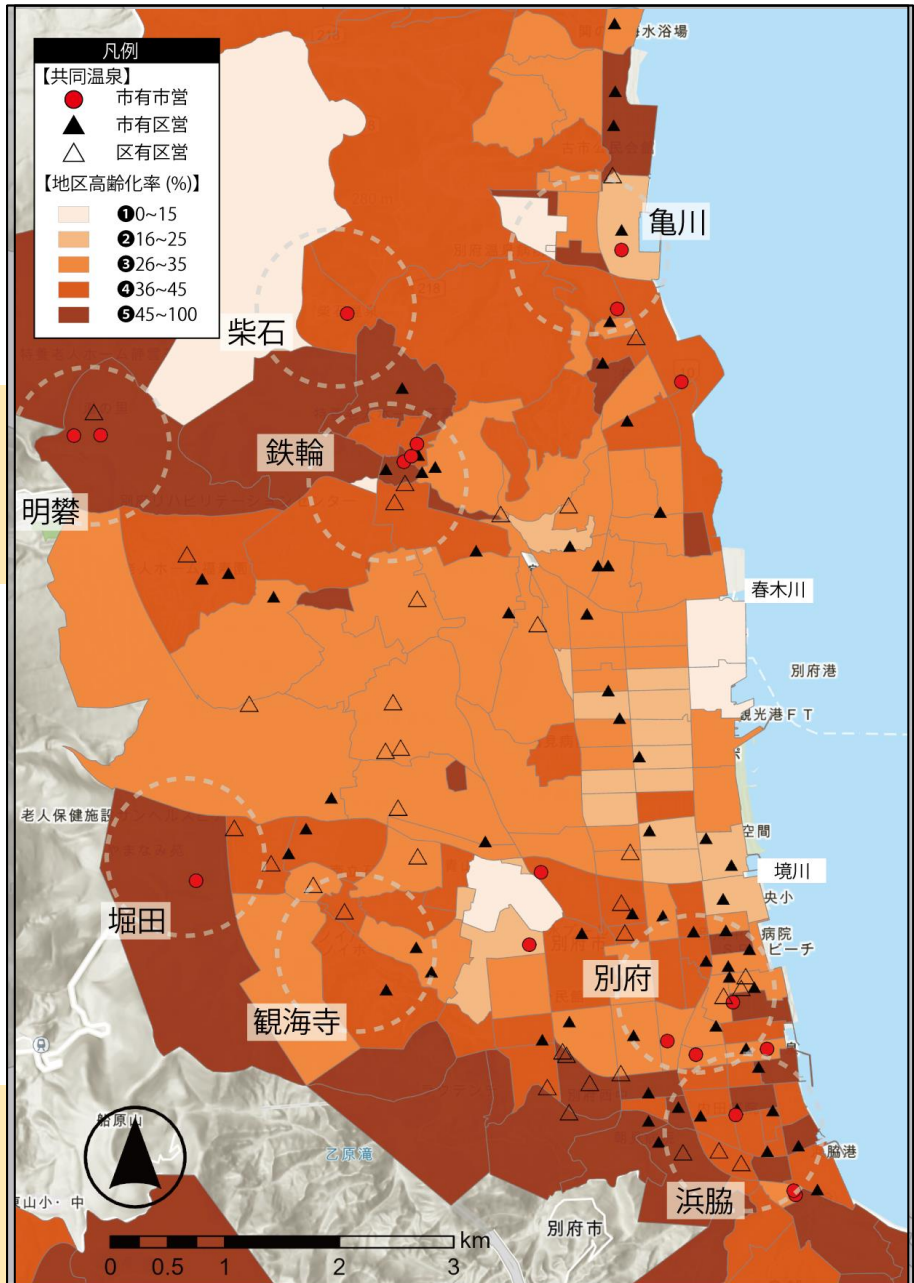


図8 別府市中央地区の高齢化率

4. 用途地域と地区人口からみる共同温泉の特徴

65歳以上の人口と、共同温泉のカーネル密度を用いて、廃業のリスクを示したものを図9に示す

別府温泉地周辺は
 高齢者人口も多く(601~1000人)
 密度も高い(10.1~30.0(件/km²))

そのため、別府市の共同温泉において、「**廃業リスク高エリア**」と予想される

近年(3章Ⅳ期)に廃業した共同温泉(青●)

別府温泉地北側を中心に、「**廃業リスク高エリア**」内や近辺で確認

つまり、「**廃業リスク高エリア**」北側は**既に廃業**が進行し、エリアが縮小している

近年の廃業の少ない「**廃業リスク高エリア**」南部は特に**廃業リスク**が高いと予想される

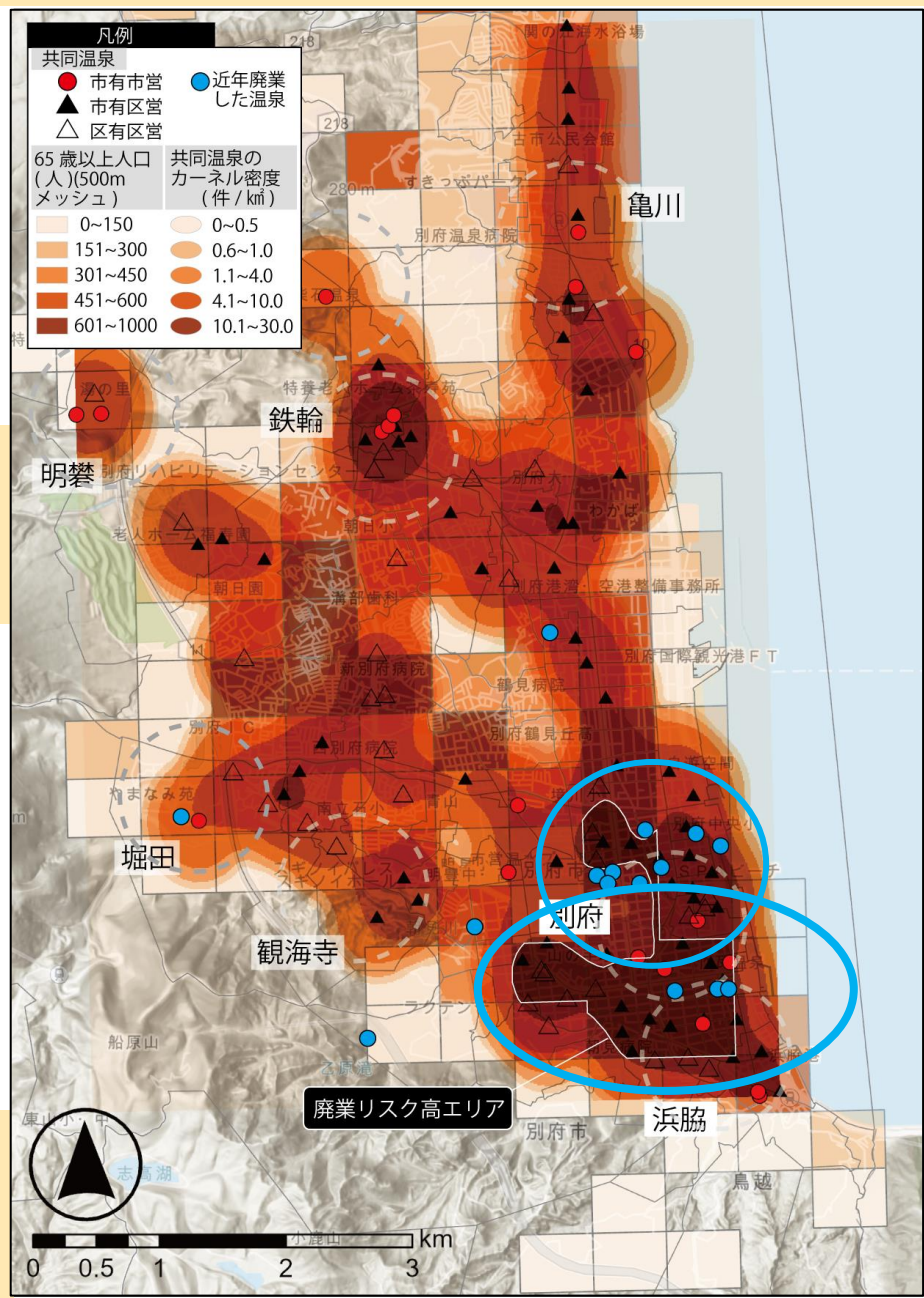


図9 共同温泉のカーネル密度と高齢者人口メッシュ

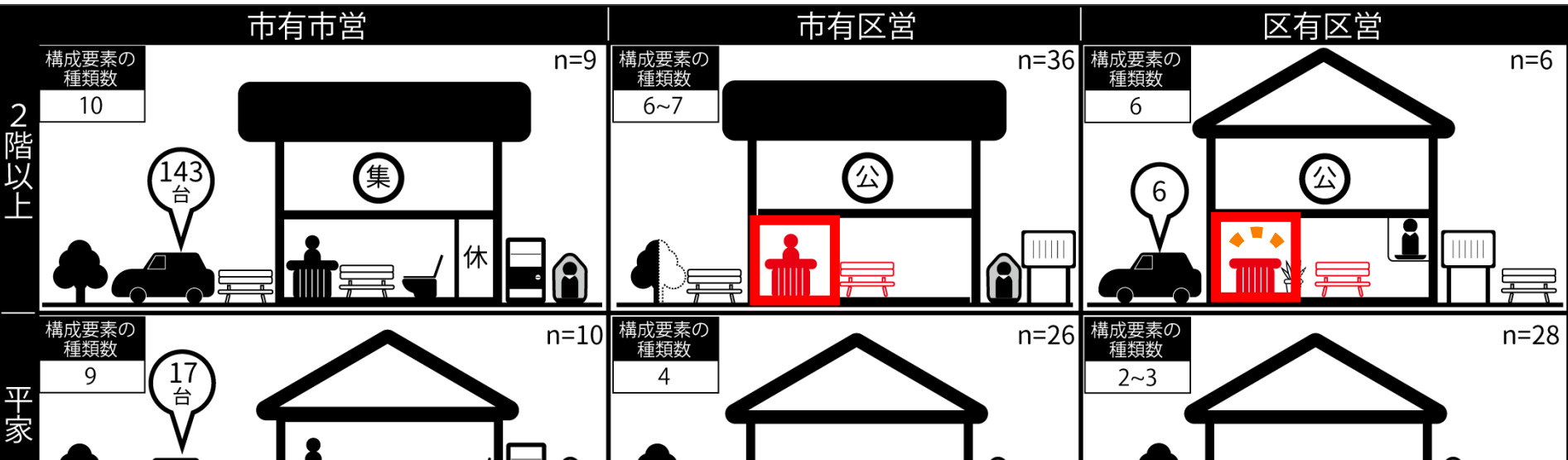
5. 共同温泉に関する制度と所有・運営主体別建築の特徴

共同温泉(115件)を構成する要素を所有・運営主体別に集計し、
 模式図としてまとめたものを図10に示す

市有市営 施設のサービスが充実している

市有区営・区有区営 屋内設備が番台やベンチなどに留まる
 →**簡素なつくり**となっている

市有区営(2階以上)では有人番台が、区有区営(2階以上)では無人番台が確認された



区有区営温泉では、補助金もないことがわかっている
 そのため、資金・人材不足が深刻化しており、
 その対応として番台を無人にしていることが考えられる

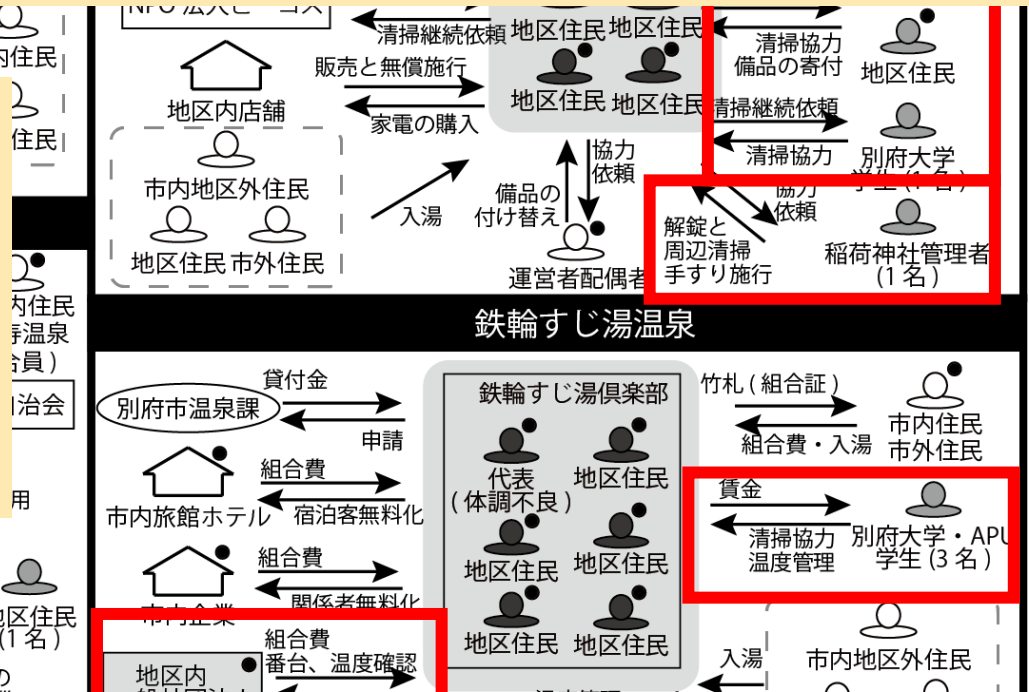
6. 運営形態を変更した共同温泉の運営実態

運営形態が変更された計4事例を選定し（市有区営3事例,区有区営1事例）
 現運営者へヒアリング調査を行った,連携体制を図11に示す

いずれの共同温泉においても,
 赤字運営に陥りそうな状態であったが,
現在は修繕のための積み立て貯蓄ができるまでになっていた

毎日必要となる**施設管理業務**
 組合員以外へ**多様な協力者を募る**
 傾向があった

その他の業務
 運営者による**無償の奉仕**で行う



運営上の課題解決手法を得ることを目的に調査を行ったが,
 運営者の奉仕や,運営協力者との連携により辛うじて支えられている実態があり,
運営課題の抜本的解決には至っていないことが確認された

7. まとめ

以下に明らかとなった、今後の共同温泉の適正管理に向けた課題を示す

市有市営

商業地域かつ温泉地といった観光客が利用しやすい立地(4章)であり、施設設備も整っていた(5章) 一方で、地区**住民の利用減少**が考えられた(4章)

市有区営・区有区営

市有区営は 観光客・地区住民のどちらの利用も考えられ(4章)、設備も比較的整っていた(5章)

補助制度が設けられているものの、ヒアリングから**運営の継続性に課題**があることがわかっている(6章)

区有区営は 地区住民の利用が想定された立地であり(4章)、番台を無人化するなど、**金銭面人員面での運営上の課題**が確認された(5章)

共同温泉の適正管理に向けて

「廃業リスク高エリア(別府温泉地周辺)」の南部へのサポートが先決である駅周辺かつ観光地といった、観光客の利用も想定できる立地であるため、解決策の一つとして、**地区へ民泊などを誘致**し、運営で連携することが考えられる

同様に、区有区営温泉においても、民泊施設の住居系地域への立地があることから、解決策の一つと考えられる

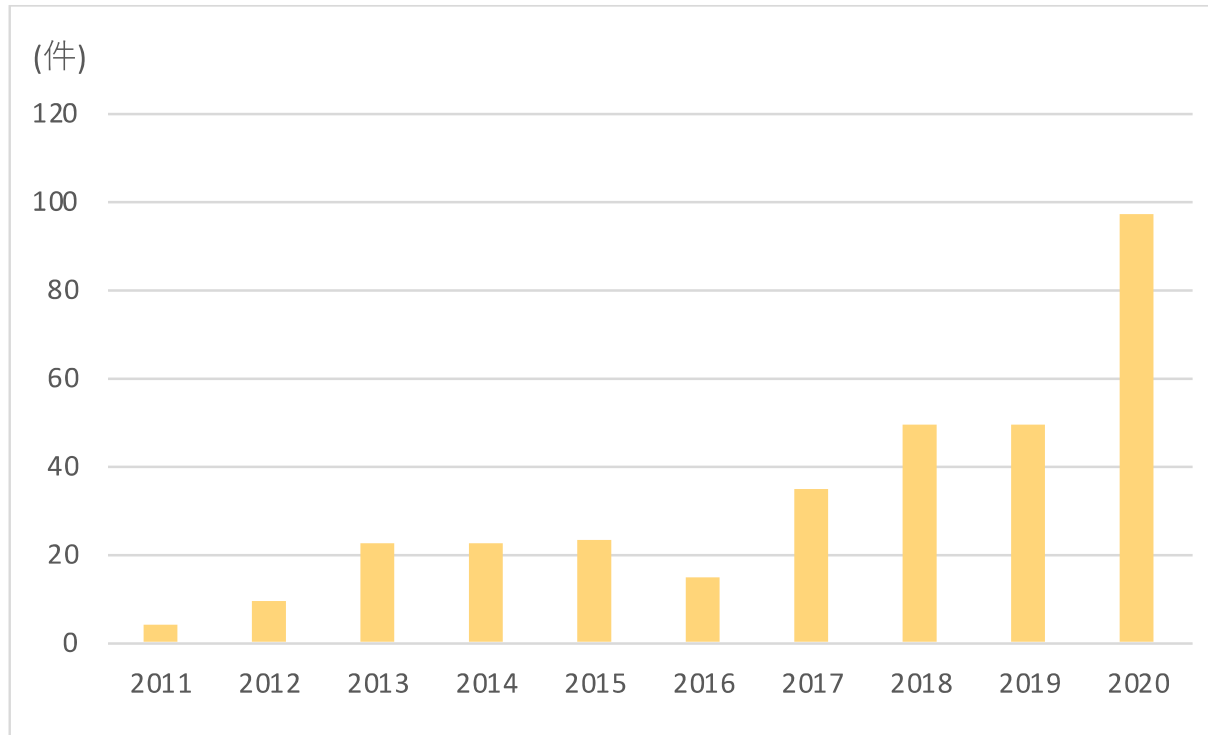
7. 参考文献

- 1) 半田康夫「全国著名温泉叢書第I巻 別府温泉史」別府市観光協会著1963年2月1日初版 出版:いづみ書房
- 2) 島根県HP「昭和の残像」
URL: <https://www.pref.shimane.lg.jp/admin/seisaku/koho/photo/180/11.html> (2023年2月13日最終閲覧)
- 3) 厚生労働省「公衆浴場業概要」URL: https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenko/seikatsu-eisei/seikatsu-eisei03/04.html (最終閲覧2022年6月1日)
- 4) 別府八湯温泉道【公式】HP「別府八湯温泉道とは」
URL: <https://onsendo.beppu-navi.jp/introduce/whats-onsendo/> (最終閲覧2023年2月4日)
- 5) 厚生労働省「公衆浴場業(一般公衆浴場)の実態と経営改善の方策」平成26年9月
- 6) 轟木龍介, 姫野由香, 横田彩夏「住宅宿泊事業法に基づく基礎自治体の取組み実態と温泉観光地における民泊施設立地規制のあり方」日本建築学会大会学術講演梗概集(北海道), F-1分冊, pp.917~918, 2022.9.
- 7) 大分合同新聞「別府 梅園温泉復活へ 資金にめど、年内目標 市出身の男性から無利子で300万円」2018年2月12日朝刊pp.12
- 8) 姫野由香, 指方綾乃, 鄭載勳「温泉観光地における民泊施設の立地分析と住民評価の実態」日本都市計画学会 都市計画論文集 Vol. 56, No. 3, 2021年10月pp. 1085-1091
- 9) 「別府市誌」別府市編集発行2003年
- 10) 「明治温泉湯治場大事典」安部政 著 昭和62年12月5日初版 出版:創思社
- 11) 「別府温泉浴場マップ」1996年 別府市温泉課
- 12) 別府市誌 昭和48年8月31日発行
別府市役所 (別府市長 荒金啓治)
- 13) 「江戸時代の別府温泉資料集成」平成7年4月 編・著:入江秀利
- 14) 大分県立図書館公式HP, URL: <https://www.oita-library.jp> (2023年1月13日最終閲覧)
- 15) 高橋正義, 十代田朗, 羽生冬佳「戦後復興期の別府市における一連の観光都市建設計画」に関する研究」日本都市計画学会 都市計画論文集, Vol. 36, 2001年 pp. 241-246
- 16) 「中須賀元町40周年記念誌」平成26年11月
別府市中須賀元町自治会・公民館
- 17) 「明治三十二年前後の別府の状況に就て」昭和34年3月記
別府市立図書館司書石橋英雄
- 18) 「おおい温泉風土記」1990年3月 著者 朝日新聞大分支部
発行者久本三多
- 19) 「ふるさと別府 - 市制90周年記念決定版写真集」神戸輝夫著, 郷土出版社, 2014年09月
- 20) 別府市誌 昭和8年8月25日発行 別府市教育會
- 21) 別府市史 昭和3年4月1日発行 別府市役所
- 22) 別府市誌 昭和60年3月8日発行 別府市役所
(別府市長 脇屋長可)
- 23) 別府歴史資料電子図書館別府歴史資料アーカイブ「別府歴史年表」
URL: <http://www.beppu.biz/histo5.htm> (2022年5月11日参照)
- 24) 別府温泉地球博物館「ハイキングレポート 「みんなで探そう二酸化炭素」参加レポート」甲斐心也URL: <https://www.beppumuseum.jp/field/report/20170930.html> (2023年2月13日最終閲覧)
- 25) 別府市市政施行80周年記念市民協働イベント なつかしの湯のまち別府歴史文化展図録」 編集 別府市企画調整課 発行別府市
平成16年7月30日~平成16年8月20日
- 26) 大分県立図書館所蔵「別府温泉案内図」昭和5年
- 27) 「創立30周年記念誌 別府の風土と人のあゆみ」
2017年1月28日発行 発行編集別府市談会 発行者 友永 植
- 28) 別府八湯検定「楠温泉(歴史)」URL: <https://b8spa.exblog.jp/12746220/> (2023年2月13日最終閲覧)
- 29) 今日新聞「デジタルアーカイブ」URL: <https://kon-nichi.com>
- 30) 鉄輪洪の湯温泉組合公式サイト「鉄輪温泉洪の湯 洪の湯について」
URL: <https://www.owl.ne.jp/shibunoyu/> (2023年2月13日最終閲覧)
- 31) ゆめひのきの湯大仏温泉公式HP URL: <https://select-type.com/p/yumehinoki/#gallery> (2023年2月13日最終閲覧)
- 32) 別府・日出・地元密着動画わくわくとんぼビデオ「市内2つの温泉が閉鎖へ」URL: <https://community.ctb.ne.jp/bunka/beppu/detail/6118> (2023年2月13日最終閲覧)
- 33) 別府市HP「別府市男女共同参画センター「あす・べっぷ」」
URL: <https://www.city.beppu.oita.jp/sisei/danjyokyoudousankaku/asubeppu.html> (2023年2月13日最終閲覧)
- 34) 別府市HP「芝居の湯(別府市コミュニティーセンター)」
URL: https://www.city.beppu.oita.jp/sisetu/shieionsen/18community_community.html (2023年2月13日最終閲覧)
- 35) 大分経済新聞「別府市の共同温泉「末広温泉」営業再開 地域交流の場、有志が復活」
2021年4月13日URL: <https://oita.keizai.biz/headline/1747/>
- 36) べっぷの文化財No.51-別府の温泉建築-発行 別府市教育委員会 編集
別府市教育委員会・別府市文化財保護審議会 令和3年3月
- 37) 別府市HP「別府市の統計データ 市政要覧アーカイブス」
URL: https://www.city.beppu.oita.jp/sisei/toukei_housei/detail263.html (2023年1月20日最終閲覧)
- 38) 別府市HP「観光統計 年間調査」URL: https://www.city.beppu.oita.jp/sangyou/kankou/sokuhou_01.html (2023年1月20日最終閲覧)
- 39) 国土地理院「基盤地図情報 ダウンロードサービス」
URL: <https://fgd.gsi.go.jp/download/menu.php> (2023年2月13日最終閲覧)
- 40) 別府市「文化的景観 別府の湯けむり景観保存計画」2012年
URL: https://www.city.beppu.oita.jp/gakusyuu/bunkazai/yukemuri_keikan_plan.html (2023年2月13日最終閲覧)
- 41) 国土交通省「国土数値情報ダウンロードサービス」
URL: <https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/> (2023年2月13日最終閲覧)
- 42) 総務省統計局「政府統計の総合窓口(e-Stat)」
URL: <https://www.e-stat.go.jp> (2023年2月13日最終閲覧)
- 43) 日本医師会「JMAP 地域医療情報システム 大分県別府市」
URL: <https://jmap.jp/cities/detail/city/44202> (2023年2月13日最終閲覧)
- 44) 山根万由子, 雨宮護, 白川真裕, 大山智也, 島田貴仁「犯罪発生マップにおける地図表現の実態と閲覧者の認知への影響-配色と分類手法の異なる複数の地図を用いた心理実験-」日本都市計画学会 都市計画論文集, Vol. 55, No. 3, 2020年10月pp. 385-392
- 45) 定梶圭, 巖先鏞, 鈴木勉「施設集積に基づいた鉄道駅の類型化と拠点性に関する研究」日本都市計画学会 都市計画論文集, Vol. 56, No. 2, 2021年10月pp. 397-402
- 46) 北條真悟, 森傑, 野村理恵「立地条件と近隣環境からみた駐輪スポットの空間特性 札幌中心市街地の駐輪実態に着目して」日本建築学会計画系論文集, Vol. 80, No. 714, pp. 1753-1763, 2015年8月
- 47) 松橋啓介「公共交通機関の停留所の立地が徒歩アクセスと潜在的利用人口に与える影響」日本都市計画学会学術研究論文集, Vol. 37 pp. 157-162, 2002年
- 48) 厚生労働省「公衆浴場における衛生等管理要領等について」平成12年(令和2年一部改正)

0. 民泊施設に関して

既往研究¹⁾では、

旅館業法上の簡易宿所営業を「簡易宿所」、住宅宿泊事業法上の民泊を「住宅民泊」双方をまとめて「民泊施設」と定義している



付図1 別府市の簡易宿所数の推移

1) 轟木龍介, 姫野由香, 横田彩夏 「住宅宿泊事業法に基づく基礎自治体の取組み実態と温泉観光地における民泊施設立地規制のあり方」

日本建築学会大会学術講演梗概集（北海道）, F-1分冊, pp.917~918, 2022.9

5. 共同温泉に関する制度と所有・運営主体別建築の特徴

5-1別府市における共同温泉の補助制度の実態

別府市の共同温泉に対する貸付などの補助制度を付表1に示す
 温泉の掘削や配管から,改修・観光客への対応まで,幅広く設けられている

市有区営

①②③で対象

区有区営

②③の対象外
 ①も貸付の利息が設けられている

そのため区有区営温泉は,借り入れ(①貸付金)をして
 施設維持のための改修を行うことが厳しく,積み立てが必要であることがわかる

付表1 別府市における共同温泉に関する貸付・補助金

			有無	対象	金額(限度額)	利息	条件
①	温泉建設等に 対する貸付金	市有区営	○	建設,改修,掘削, 引湯管の敷設	1/2 (600万円)	無 年1%	連帯保証人 3名必要
		区有区営	○				
②	温泉建設等 補助金	市有区営	○	①の貸付を決定する事業	①と同額 (100万円)	— —	①の貸付をおこ なっていること
		区有区営	×				
③	共同温泉環境 整備等補助金	市有区営	○	緊急修理改修,バリアフ リー対策,観光客への対応	5万円以上1/2 (20万円)	— —	①と同時は不可, 3年度に1回
		区有区営	×				

6. 運営形態を変更した共同温泉の運営実態

従来共同温泉では見られない業務

七ツ石温泉・鉄輪すじ湯温泉
 寿温泉

運営者による広告作成
 施錠タイマーの設置

通常組合内で資金を募るような業務

大仏温泉
 七ツ石温泉

運営者の私財を投じた新築
 手すりの設置を運営者自ら行う

その他業務も無償で担っており、
 それらの業務は、運営者の金銭・労力の負担によって実現されている

	大仏温泉(温泉組合継続)	寿温泉(NPO法人運営委託)	七ツ石温泉(地区住民運営委託)	鉄輪すじ湯温泉(温泉組合変更)
運営方式	区有区営	市有区営	市有区営	市有区営
運営形態	温泉組合方式 [一般と組合員の入湯を時間で分ける]	自治会・温泉組合からNPO法人へ運営委託 [【通常】一般と組合員が同時に入湯]	温泉組合から地区住民有志が運営委託 [【通常】一般と組合員が同時に入湯]	3種類の組合方式 [【通常】一般と組合員が同時に入湯]
料金設定	組合員:月々2000円 一般:800円,600円	組合員:月々3000円, 一般:市内200円,市外300円 回数券9枚:1000円	組合員:月々2200円 一般:100円	個人組合員:年2200円,サポーター組合員:年10000円,旅館ホテル組合員:年6000円 一般:100円
変更経緯	組合員の減少と建物の老朽化により建て替えを決意。その際に従来通りの、一般と組合員が同時に入湯する形式では立ち行かなくなること危惧したため、一般と組合員の入湯を時間で分けた。また、 <u>現運営者の私財によって新築がなされ、さらに給与なしで運営を行っている。</u>	現運営者は自治会長(前運営者)から番台を無くすことを聞き、NPO法人別府八湯温泉道名人会で番台を引き受ける。その後、現運営者はNPO法人を脱退。新たに自治会長から運営委託を打診され快諾、NPO法人ピーコスを立ち上げた。現在に至るまで委託料はない。	自治会が運営していた。しかし、利用者の減少により来月から赤字となるため、閉鎖することを説明会(自治会有志へ向け)で説明。その際に、現運営者らが運営を引き継ぐと地域住民が5名立候補し、 <u>給与無しで運営を行っている。</u>	2014年に経営不振により閉鎖したが、地区住民の要望により、前温泉組合代表を中心に現運営6人が話し合い、広く組合員を募る形式で再開した。現在も、 <u>給与無しで運営を行なっている。</u>
現運営者の業務	清掃(協力者有)、湯の管理、連絡窓口としての業務、金銭の管理・計算、備品の購入、問題時の対応	清掃(協力者有)、湯の管理(協力者有)、連絡窓口としての業務、金銭の管理・計算、問題時の対応、 <u>鍵の施錠や消灯の自動化</u>	湯の管理(協力者有)、連絡窓口業務、金銭の管理・計算、備品の購入、 <u>手すりの設置(協力者有)</u> 、備品の補修、 <u>広告の作成</u> 、問題時の対応、 <u>五穀・タオルの収集(組合員寄付)と販売</u>	湯の管理(協力者有)、連絡窓口としての業務、金銭の管理・計算、備品の購入、備品の補修、 <u>広告の作成</u> 、問題時の対応
番台	敷地内に併設する組合長の自宅にて受付	無人	無人	向かいのコワーキングスペースで受付

0. 共同温泉の動向【期間 I 温泉観光発展期】

表6 【期間 I 温泉観光発展期】の共同温泉の動向と別府市の動き



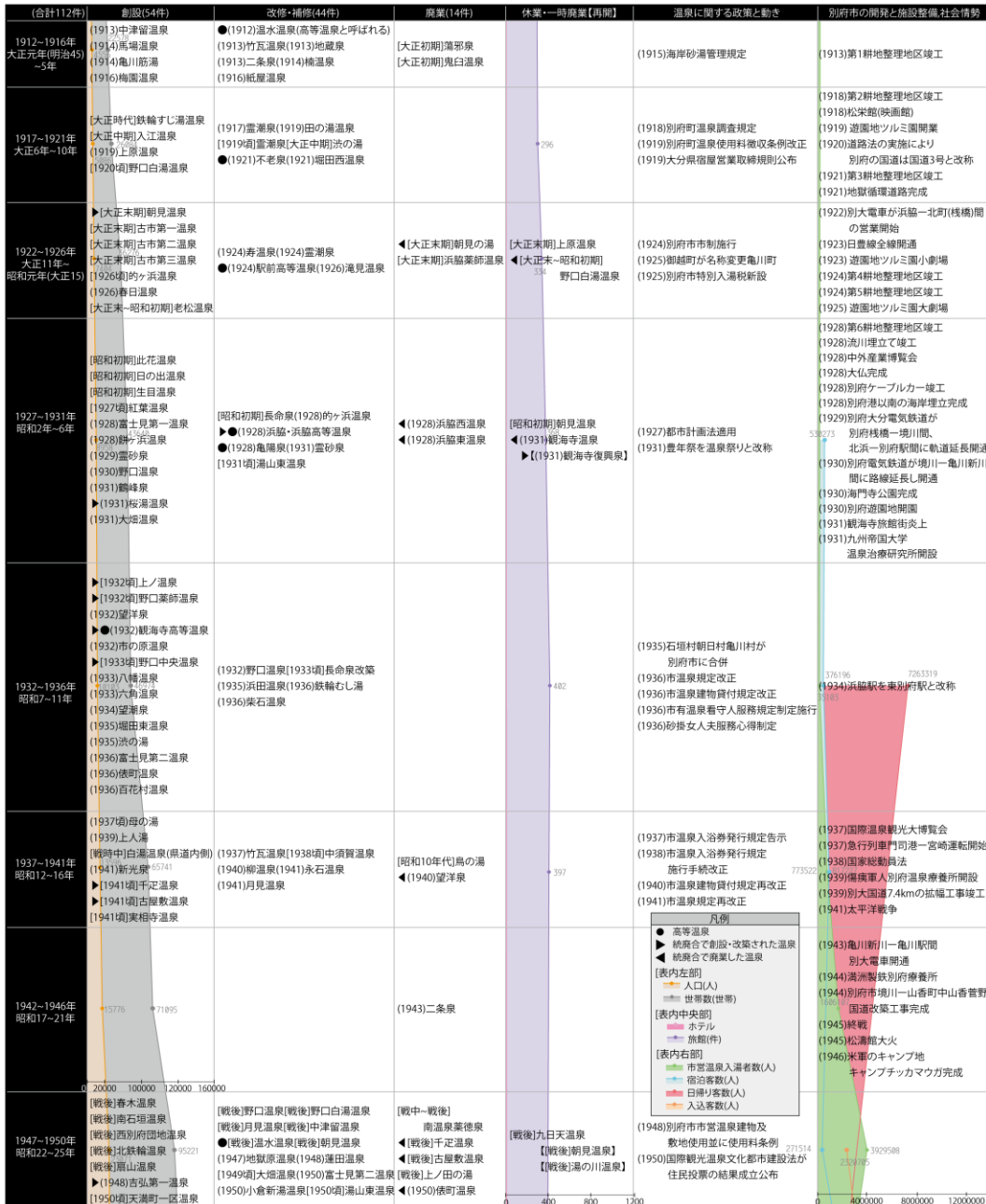
凡例

- [表内左部]
 - 人口(人)
 - 世帯数(世帯)
- [表内中央部]
 - 旅館(件)
- [表内右部]
 - 市営温泉入湯者数(人)

0 20000 100000 120000 160000 0 400000 800000 1200000

0. 共同温泉の動向 【期間Ⅱ 温泉観光発展期】

表7 【期間Ⅱ 温泉観光発展期】の共同温泉の動向と別府市の動き



凡例

- 高等温泉
- ▶ 統合前で創設・改築された温泉
- ◀ 統合前で廃業した温泉
- [表内左部]
 - 人口(人)
 - 世帯数(世帯)
 - ホテル
 - 旅館(件)
- [表内右部]
 - 市営温泉入湯者数(人)
 - 宿泊客数(人)
 - 日帰り客数(人)
 - 入込客数(人)

0. 共同温泉の動向 【期間Ⅲ 温泉保護・国際観光期】

表8 【期間Ⅲ 温泉保護・国際観光期】の共同温泉の動向と別府市の動き



0. 共同温泉の動向【期間Ⅳ温泉観光質向上期】

表9【期間Ⅳ温泉観光質向上期】の共同温泉の動向と別府市の動き



0. 共同温泉に関して

所有運営主体別共同温泉の公開件数と割合

(件)		公開	温泉祭りのみ公開	非公開
市有市営	平家(n=10)	10(100%)	0	0
	2階以上(n=9)	9(100%)	0	0
市有区営	平家(n=25)	14(56.0%)	10(40.0%)	1(4.0%)
	2階以上(n=36)	25(69.4%)	11(30.6%)	0
区有区営	平家(n=26)	8(30.8%)	2(7.7%)	16(61.5%)
	2階以上(n=6)	5(83.3%)	0	1(16.7%)

共同温泉の動向の各項目の定義

共同温泉の動きの定義

創設	過去に同一名称・同一敷地の共同温泉が存在しておらず、新たに開業すること (ただし竹瓦温泉のように、過去同一の場所に浴場があったにも関わらず、改築のタイミングを、一般に創設と呼称する場合も確認できる(別府市HP竹瓦温泉の項等)ため、明治期以前に限り、参考文献に創設・開業と記載されている改築・補修を「創設」としている)
改修・補修	移転や内装等の簡易な改修、構造に係る大規模な改修、給配湯管に関する改修をすること
休業・一時廃業	湯量・温度の低下など源泉に起因せず、かつ改修による営業停止ではなく、経営の悪化・天災等で営業不能になり後に営業再開した場合 ただし、源泉に起因した場合でも、建物が壊される等一度完全な廃業に至った場合も「休業・一時廃業」とする
再開	「休業・一時廃業」の後、営業を再開した場合
廃業	何らかの理由で営業が停止され、現在までその状態が継続しており、休業と公開されていない場合
【重複有】統廃合	他共同温泉の廃業や創設に伴って、創設・廃業がなされた(ことが参考文献内で明言されている)場合

※改修と湯量・温度の低下など源泉に起因する、休業は非常に短期間で再開している場合も多く、把握することが困難であったため記載していない